

検討会の進め方~~(案)~~[※]

※第1回自動運航船検討会終了後の追記注書き：
第1回自動運航船検討会におけるご議論により、
安全基準・検査WGの構成を修正（詳細はP. 2ご参照）の上で
本検討会構成員の了承を得た。

検討の進め方 **案**※

- 自動運航船の2030年頃までの本格的な商用運航の実現に向けた環境整備を推進するため、本検討会において、安全基準・検査方法、乗組み体制、責任・保険等について必要な検討を行う。
- 次回以降、関係事業者へのヒアリングを実施しつつ、検討を重ね、**実プロジェクトの実施に必要な事項**について、**来年前半をめどに一定の結論**を得ることとしたい。
- さらに、**実プロジェクトを通じた検証**を行い、その状況を精査することにより、自動運航船の制度化に向けて継続的に検討することとしたい。

現時点での検討会開催予定

- 2024年6月 第1回（論点案、検討の進め方・WG設置）
- 7月頃 第2回（関係事業者ヒアリング）
- 11月頃 第3回（基準・検査方法の方向性 等）
- 2025年2-3月 第4回（実証運航の実施方法 等）
- 6月 第5回（基準・検査方法、実証運航の実施方法）
- 2026年以降 本格的な商用運航を目指した制度化

※第1回自動運航船検討会終了後の追記注書き：
第1回自動運航船検討会におけるご議論により、
本検討会構成員の了承を得た。

検討スケジュールのイメージ

実プロジェクトの実施に必要な事項の検討

- ✓ 機器・システムの安全基準、船舶検査の方法
- ✓ 事業者・陸上監視の要件、監査の方法
- ✓ 責任・保険等



実プロジェクトを
通じた検証



自動運航船の制度化 等



安全基準・検査WGの設置について

- 自動運航船の安全基準・検査方法については、技術的な議論が必要となることから、本検討会傘下に「安全基準・検査WG」(座長:清水悦郎 東京海洋大学教授)を設置することとしたい。
- 同WGを設置する場合、本検討会の議論を踏まえ安全基準・検査方法の方向性を検討し、その結果を本検討会に対して報告することを求めることとする。

WGへの付託事項

- 自動運航船の安全基準・検査方法について、本検討会で議論する策定方針及び国際規則の議論状況に留意しながら検討を進める。
- 上記検討の結果について、本検討会に対して報告を行う。

検討スケジュール

- 2024年8月頃に第1回を開催予定
- 以降適宜開催し、本検討会に報告

安全基準・検査WGの構成 ~~(案)~~ ※

<有識者>

- 清水 悦郎 東京海洋大学学術研究院海洋電子機械工学部門 教授
 村井 康二 東京海洋大学学術研究院海事システム工学部門 教授
 三輪 誠 神戸大学大学院海事科学研究科 准教授
 渡部 大志 埼玉工業大学 副学長・自動運転技術開発センター長
 田村 兼吉 (一財)日本船舶技術研究協会 特別研究員
 間島 隆博 (国研)海上・港湾・航空技術研究所海上技術安全研究所
 知識・データシステム系長 兼 自動運航船プロジェクトチーム長
 巢籠 大司 (独)海技教育機構企画調整部 研究国際課長
 石橋 公也 (一財)日本海事協会 技術研究所長

<関係業界団体 ~~(案)~~ ※>

- 全日本海員組合、日本船長協会、日本船舶機関士協会、日本造船工業会、
 日本中小型造船工業会、日本舶用工業会、エンジニアリング協会

<関係事業者・機関 ~~(案)~~ ※>

- (公財)日本財団、(株)日本海洋科学、(株)エイトノット、(公財)日本海事センター、
 (公社)日本海難防止協会、(一財)日本船舶技術研究協会、(一財)海技振興センター

※第1回自動運航船検討会終了後の追記注書き：
 第1回自動運航船検討会におけるご意見により、本WGの構成に、
 (一社)日本船主協会等の船主関係団体を加えることとした上で
 本検討会構成員の了承を得た。